MIRA TUKU

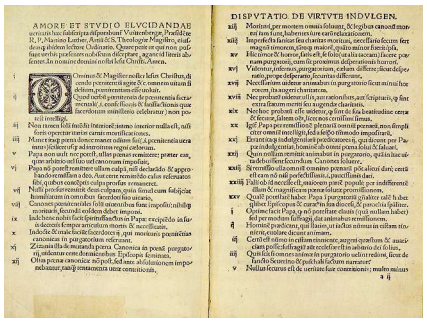
未来をつくる ソーシャルイノベーション 第2部

文・西村勇哉

暮らしの中から見つける変化の力

CASE: 50

印刷 ―新たな視点を示し、変化を生み出す―



ルターがヴィッテンベルクの城教会に提示した95か条の論題。当時は、事前に論題を掲示して討論会を催すことが所定の手続きであり、一般的だった。

グーテンベルクが製作した活版印刷機のレプリカ。印刷技術の普及によって書籍の数は増大し、現在では全世界で約1億5000万冊の書籍が存在する。
by Graferocommons is licensed under CC BY-SA 3.0 (https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0)

POINT!

知識だけでなく、新たな視点や論点が提示されることで議論が起こり、新しい社会の可能性の模索によって変革が生まれる。

今回は、「新たな視点の提示と議論を生み出す」力について、印刷の歴史を見ていきます。

印刷の原点は、印章（ハンコ）にあります。北シリアの遺跡からは紀元前７０００年後半に作られた印章が出土しました。中国文明、インダス文明、古代エジプトなど、印章は各地で紀元前から用いられてきました。書籍の印刷は、７７０年に作られた日本の法隆寺に残された百万塔陀羅尼（ひゃくまんとうだらに）（平定祈願の経文）が現存する最古の木版印刷印刷物です。文字単位を組み合わせて使用する活版印刷は、11世紀の中国の発明家「畢昇」によって作られました。

そして、ドイツの金細工職人ヨハネス・グーテンベルクによって１４５５年ごろに活版印刷術が登場します。ヨーロッパで用いられるアルファベットは文字数が少なく（漢字は世界で最も多くの文字を用いる言語体系で約10万種類、アルファベットは二十数文字）、準備する文字が少なくて済む利点を生かして書籍の印刷で活躍し、加速的に普及しました。グーテンベルクの印刷機の登場以後、約30年でヨーロッパの各地に印刷所が設立されます。

グーテンベルクは１４５５年に約１８０部の聖書を印刷し、製作しました。当時の聖書はすべて手書きで作られ、１つの教会に１冊の聖書が置かれていればいいほうでした。グーテンベルクが出版した聖書は、紙版が１冊４００万円程度と依然高価でしたが、その後生産性が20倍程度向上し、１５２２年に出版されたルター訳の聖書は、約30万円と10家庭に１冊が手に入れられる程度に安価になります。

マルティン・ルターが１５１７年に張り出した95か条の論題は、ラテン語からドイツ語に翻訳されたものが印刷所で印刷されたことで、結果的に読者からの大きな反響が生まれ、各国の宗教改革へとつながっていきます。

印刷技術は、知識の拡大だけでなく、新たな視点の問いかけと議論を通じた変革を生み出していきました。１７６２年に出版されたジャン・ジャック・ルソーの『社会契約論』は、当時の社会体制への不満を背景にフランス革命へと展開していきます。新たな視点を提示することは、文学、芸術、哲学など印刷技術が広まる遥か以前から行われてきました。印刷技術の普及は、人々へ問いかけを広げ、議論をつくり出し、新しい社会の模索と変化を生み出してきました。

にしむら・ゆうや●NPO法人ミラツク代表理事。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラツクを設立。Emerging Future, we already have（すでに在る未来の可能性を実現する）をテーマに、全国横断型のセクターを超えたソーシャルイノベーションプラットフォームの構築と未来潮流に基づいた新規事業創出のためのプロジェクト運営に取り組む。
http://emerging-future.org